

おれんげニュース

No. 231

2009年6月号



伯耆大山で雪山訓練 2009年4月19日

★集会・委員会・行事関係のお知らせ★

★山行の一步は会合から★

	6月			7月		
運営委員会	9日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館	7日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	5日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館	3日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	23日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館	21日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館



6月の山行計画

部	山行部	技術研修部	ひまわり山行部	自然保護部
月 日	7日(日)	10日(日)	19日(金)	28日(日)
山 名 (行事)	烏帽子一隠居岳 (670m)-八天岳-国 見岳(777m)	大根地山(652m) とチベット展	本明川流域散策	クリーンハイキング 少年自然の家～仏 の辻～五家原岳
地 図	蔵宿・	大宰府	大渡野・富川・ 湯野尾	多良岳
集合場所	JR 諫早駅裏 6:20 JR 西諫早駅 6:30	JR 諫早駅裏 7:00 JR 西諫早駅 7:10	JR 諫早駅正面側 8:50 集合	JR 西諫早駅 9:00
帰着時間	19:00 頃	17:30 頃	バス温泉発 14:32 16:32	15:00 頃
歩行時間	4, 5 時間	3 時間程度	15 キロ程歩く	
難 易 度	軽・中 (歩行時間)	初心者向き	初心者向き	初心者向き
交通手段	マイクロバス	マイクロバス	徒歩&バス(帰路)	マイカー
宿泊施設	なし	なし	なし	なし
温 泉	有り	有り	本野温泉	
参加費	3,000 円	4,500 円程度	入浴代・バス代	無料
申込期限	5月26日(火)まで	満員になり次第	6月17日(水)	6月25日(木)
集 約	中須賀孝正 0957-26-5153	米田テイ子 0957-26-0146	江崎幸子 0957-26-4819	水江美栄子 0957-43-4947
備 考	ヤマツツジ鑑賞 烏帽子岳～から かくい 隠居～国見岳の縦 走	長崎街道、筑前六宿 の一つ山家宿から 登る。筑紫平野、耳 納連山を望む展望 と信仰の山。 聖地チベット、天空 に聳えるポタラ宮 とチベット密教の 至宝を一堂に。	登山靴よりウォー キングシューズ 弁当・水筒・雨具・ その他	持参するもの 軍手・火バサミ 弁当・水筒等
感想提出	17日(水)マデ	19日(金)マデ	29日(月)マデ	7月8日(水)マデ



7月の山行計画

部	山行部	技術研修部	自然保護部ひまわり合同企画	自主山行
月 日	5日(日)	11日(土)～ 12日(日)	29日(水)	6月末か7月初旬
山 名 (行事)	みぎただけ 右田ヶ岳(426m)	高千穂・韓国・中岳 縦走	とどろき溪谷から 多良岳へ	平尾台
地 図	山口県防府	高千穂峰・韓国岳・ 日向小林	多良岳	
集合場所	JR 諫早駅裏 6:00 JR 西諫早駅 6:10	JR 諫早駅裏 6:00 JR 西諫早駅 6:10	JR 西諫早駅 8:00	
帰着時間	20時頃	12日 20時頃		
歩行時間	3時間半	1日目 3時間 2日目 約5時間		
難 易 度	初心者向き	一般向き	一般向き	
交通手段	マイクロバス	マイクロバス	マイカー	
宿泊施設	なし	えびの高原	なし	
温 泉	有り	有り	なし	
参加費	5,000円			
申込期限	満員になり次第〆 切	満員になり次第〆 切	7/25	
集 約	中須賀孝正 0957-26-5153	米田テイ子 0957-26-0146	江崎幸子 0957-26-4819	
備 考	巨岩の鎧をまとう 展望絶景の名山！ 山口県下人気ナン バーワンの山。		オオキツネノカミ ソリ鑑賞	
感想提出	15日(水)マデ	21日(火)マデ	8月8日(土)マデ	

技術研修部から

◎ 6月～7月の沢登り

月 日	6月27日(土)	7月25日(土)
場 所	小川内谷 左俣	
集 合	J R 西諫早駅前	8時30分

沢登りは平日、ゆとりバンクで時々実施します。



自主山行 この夏は 穂高へ挑戦!

月 日	2009年7月24～28日
行 程	諫早～新大阪(夜行バス)～上高地 ～涸沢～奥穂高～岳沢～上高地 ～中部国際空港(ANA)～長崎
参 加 者	7名予定 自主山行とします。 ご希望の方は早めに下記へご連絡下さい。
集 約	鎌水律夫 ☎ 26-2720

次は穂高へ



遭難対策担当から

全国連盟遭難対策部部長名で
下記のような宣言が出されました。
周知徹底を図るために下記にその全文を掲載します。

非常事態宣言

2009年4月15日
全国連盟遭難対策部部長
井芹昌二

2009年3月末日にて行方不明2件3名、死亡事故3件3名の事故の報告を受けた。わずか3ヶ月間に起きた重大事故の数は異常である。

2009年重大事故の内容は次の通りである。

- ① 1月4日、北海道・無意根山(1460m)で道央地区連盟の女性会員(61歳)が下山時にパーティーとはぐれ、単独行動となり視界不良のため雪庇を踏み抜き5～6m滑落する。本人からの携帯電話連絡で生存が確認されたが、悪天候のために救助された時には死亡していた。
- ② 1月11日12日、長野、山梨県境・鋸岳(2685m)にて東京都連盟男性会員(43歳)が11日、単独で鋸岳へ入山する。予定を過ぎても下山せず、13日よりヘリによる搜索、会のメンバーによる搜索が行われたが確認できず行方不明となっている。
- ③ 3月10日 群馬県谷川岳俎山稜で群馬県連盟の男性会員2名(57歳)(53歳)が下山せず搜索を行ったが見つからず行方不明となっている。
- ④ 3月18日 兵庫県六甲山系・蓬莱峡で大阪府連盟の男性会員(67歳)が18日午前9時ごろ

大扉風取り付きで発見される。事故現場状況からフィックスロープをセットし単独で登攀し、懸垂下降中に何らかの原因で滑落したと推測される。(目撃者なし)検視の結果から死亡推定時間は困難である。

- ⑤ 3月29日 長野県八ヶ岳山麓・角木場で東京都連盟の男性会員(49歳)がアイスクライミング訓練、トップロープのセット後、懸垂下降で何らかのミスが生じてグラウンドフォールしたと推測される。(目撃者なし)

労山内での死亡・行方不明者は上記であるが、最近では元会員の死亡事故、重大事故の報告もある。重大事故に繋がりにくい危険要素を含んだヒヤリハット(インシデント)はかなりの数にあると予想される。事故の状況が明確なものについては早急に分析を行い、二度と同じ間違いを繰り返す事のないように早急に対策を講じていただきたい。行方不明者については会を中心に捜索が続けられ、遭難の原因がいずれ明らかにされることと思う。

各都道府県・各会の遭難対策担当者は非常事態を全会員に「対岸の火事」では無いことを知らせていただきたい。

「重大事故は決して起こさない・起こさせない」

- ◎単独登山は控えよう ◎天候判断は的確に
◎確かな技術・体力を ◎登山計画は綿密に



4月・5月の山行報告

4月24日(金) 春の里歩き

<参加者> 中村か 佐藤 江崎 佐原 田中ひ 森 平 林 本秀 林田 中尾 松尾と
金丸な 酒井 (小山) 14名+1名

<行程> バスターミナル9:10→田原農場10:30→吉之丞公園11:00
→打越配水池12:00→(昼食)→出発12:50→おがたまの木13:15
→解散14:30
*バス組5名 15:06 殿崎バス停 JR組9名 16:00 湯江駅乗車

<感想>

「みさかえの園行」バスにて国道207号線を北上、小長井町の中程から左折して山に向かって走る。ここからフリーバスになる。どこでも自由に乗降できるけれど、不慣れな私達には降車場所がよくわからず、ちょっと行き過ぎてしまった。慌てて降りて、本日のリーダー小山さんと合流。小山さんは体調が思わしくないとのことで、マイ軽トラで参加され、私達を待っていて下さった。先導して要所で指示を出して下さいましたが、その後、リーダーは松尾さんに交代して、小山さんは帰宅された。

「田原農場前」から歩き始める。点在する農家の庭先は、春から初夏の花々が今を盛りと咲き競っている。バラ、つつじ、芝桜、デージー、アイリス、藤、大手鞠、小手鞠、もっこうバラ……。

舗装された農道をジグザグに上り下りし、畑にはジャガイモの蕾が大きく膨らんで白く色づきはじめ、竹林には筍がスクスクと天に向かって成長している。



「吉之丞公園」というところで一休みして、さらに登り、峠を越えてちょっと下った丘の中腹「打越配水池」と名札のあるネットの脇で昼食。右前方には五ヶ原岳、その右奥は経ヶ岳か。連なる山並みの手前には、のどかな農村風景が広がる。何処からともなくミカンの花の香りが漂ってくる。本日のテーマ「春の里歩き」を、存分に味わう。

昼食後は、日本一のオガタマの木を見物の後、急傾斜のあぜ道を下り、長里川上流に至る。クレソンの白い花が咲く小川の飛び石をとんで対岸に渡り、ジグザグ道路を登り、峠を越えて里に出る。やや広い十字路に出て、ここで二班に別れて解散。

直進してバス利用組 5 名。ゆっくり歩いて J R 湯江駅まで 9 名。春の楽しい一日でした。

(田中紘子 記)

4月26日(月) 酒呑童子山(1180m)ハナグロ山(1086m)



〈参加者〉 松園 中村か 川原 坂本 林田ム 篠原
森田 田村 米田 田中ひ 松尾と 下釜
計 12 名

〈行程〉 6:20 諫早駅裏発～7:30 金立～9:10 カシノキヅル
9:40 登山口→10:10 小鈴山→10:25 小鈴越→
11:00 酒呑童子山頂—休息—11:30 下山→
11:50 小鈴越→12:00 林道登山口～12:05 ハナグ
ロ登山口発→12:20 昼食—13:30 ハナグロ山頂→
下山開始 13:40→14:45 登山口

〈感想〉

前日の雨が気にかかるも、本日は 12 人で頑張って出発した。

ストレッチの後、登山開始。入口付近ではエイザンスミレが咲きほこり、私たちをやさしく迎えてくれた。階段を 15 分程行くと今度はミツバツツジ・ミヤマシキミが満開だった。頂上付近になると、急登の鎖場があり、ゆっくりと移動することが出来た。

頂上では、ヤブツバキ、ツクシシャクナゲの前で皆で写真を撮った。時間が早いということで、食事は下山した後という事になったが、途中の林道にイタドリが一杯あったので、数人の人が採って家で天ぷらにすると楽しんでた。

次のハナグロ山への中間地点では犬のお墓がありとてもめずらしいナーと言って帰路へついった。今日は花も見れて、とてもすばらしい山行でした。有難うございました。

(坂本三枝子 記)

5月1日(金) 平野岳(895m) 石割岳(895m)

〈参加者〉 江崎 森(雅) 川内 本秀 田村 米田 松園 田中(静) 中村(か) 佐原
川原 國分 高森 福岡 林田 下釜 松尾(敏) 林 計 18 名

〈行程〉 6:30 西諫早 9:30 平野岳登山口 10:50 平野岳頂上 11:30 平野岳下山 12:50
合流出発 18:00 帰着

〈感想〉

予定通り西諫早出発、私はらくらくコースへ。今回は石楠花と黒木の藤が見られるとのことので 10 日の予定を 1 日に繰り上げての山行だ。

最初からの急登、山の中は涼しい。沢の音、鳥の鳴き声でさわやかな気分になる。途中健脚コースの人たちと今日は、さよならとすれ違い。和紙の原料となるミツマタを教えてもらった。

また急登。平野岳は平野だから頂上は広いかな？と思ったが、割りと狭い。天気も良いし、見晴らしも良い。下りも急で滑りそうだった。

黒木の藤、荘厳寺の石楠花は終わっていた。花を楽しみにしていた私は、ちょっとがっかり、でもそれ以上に新緑がまぶしく美しい。この時季の山すっかり初夏に衣替え、やわらかい色合いの山肌はきれいだ。ほんとに緑がきれいで、緑のそよ風が目に見えるようだ。

温泉に入って汗を流す。皆さんお疲れ様でした。(林 孝子 記)

5月2日(金) 古賀植木まつり散策

<参加者> 森 中村(か) 佐原 林田 中尾 下釜 川原 平 山口(い) 藤崎
松尾(敏) 佐藤 米田 田村 田中(静) 山本 水江 柿森 松本
(外)相川 合計20名

<行程> 10:30 肥前古賀駅集合～迎仙閣～雄光苑～赤瀬邸～茂樹園～昭緑園～12:15 古賀
植木センター～12:45 解散(植木市見学)

8名は13:00 植木センター～15:00 頃久山着

<感想>

肥前古賀駅から五月晴れの好天气に恵まれて新緑の爽やかな風を受けながら植木の里古賀のスタートです。総勢20名の団体でまずは親和銀行の保養所「迎仙閣」の見学、モミジの新緑と4月～5月のツツジが美しく造形的にも評価の高い庭園です。管理人の浦さんが予約もしていないにも拘らず園内の案内をして下さった。此処の屋敷から景色を詠った吉井勇歌碑や高濱虚子の句碑など詳しく説明を受けた。最後に今度は11月25日頃素晴らしい紅葉を見学に来ませんかとお誘いを受けた。

次に「雄光苑」クロマツの手入れを休めながら社長の久保田光之さんが「どうぞゆっくり見てやって下さい」と笑顔で気持ち良く出迎えて下さった。当苑は樹齢150年を越えるクロマツやゴヨウマツの手入れが見事で老木の仕立物を主に生産しています。「いくら位かな?」「家1軒建つかも?笑」等々お喋りしながら見学見事な植木でした。

三番目は「赤瀬邸」です、近隣で有名な日本一のラカンマキ樹齢600年(高さ10M)を主体とした枯山水庭園です。この主木を母体として挿し木で多くの植木が生産されています。数年前にオレンジで訪れた時に頂いて持ち帰った幼木がどなたかの庭園で元気に大きく成長しているのではないのでしょうか。

四番目に「茂樹園」を訪問、留守なのかどうか庭園が広いので分からなかったが見せてもらいました。当園はイヌマキの大型仕立物が得意分野の一つのようです、クロマツの手入れもすばらしく当主の愛情が至るところに感じられました。スゴイの一言でした。

本日最後の庭園は「昭緑園」赤瀬邸の大マキと後の山々を借景とした庭園です。クロマツ、ゴヨウマツ、ツツジ等九州屈指の盆栽を生産されています。目の保養もさること乍ら目の玉が飛び出る様な価格だろうし、風格と貫録に圧倒されました。スバラシー。

さて、昼も近づいてきたので庭園巡りは切り上げて古賀植木センターへ向かいました。植木や盆栽、観葉植物等が500種5万点展示即売中の植木センター到着。展示物見学は昼食後にして、初夏の日差しを避けてセンター事務所裏手の木陰で、展示物のバラの花等を眺めながら各々弁当に舌鼓をうった。Sさん、Yさんより美味しい茅巻きのお土産を頂戴致し、有難うございました。植木センターの前で集合写真を撮って貰い解散後植木見学組とウオーキング組とに分かれた。8名(男5名、女3名)は植木センター～久山迄歩行。

今日は目にやさしい緑とおいしい空気を吸いながらの散策、気も心も癒して元気を貰い楽しい一日でした。お疲れ様でした。有難うございました。(松本 崇 記)

三月～五月山で出会った花々



ノリウツギの冬木&小鳥の巣





山で出会った花たち
三月から五月

5月15日～16日 やくし山登山

<参加者> 川原 米田 松園 中須賀 松尾 福岡 佐原 川内 林田 水江 山口い
本秀 下釜 山下 (14名)

<行 程>

15日 西諫早駅発(6:00) 長藪谷登山口発(10:30) やくし山頂上着(12:30)
登山口着(15:00) 山江温泉館ほたる スーパーマーケット(夕食の買い出し)

16日 尾寄崎キャンプ場発(7:15) 仰烏帽子登山口着(8:15) 高岳登山口着(8:45)
高岳頂上(9:00) 登山口着(9:30) 淡島神社 クラフトパーク 相良温泉
「茶湯里」 「焼酎蔵見学」 「青井阿蘇神社見学」 人吉インター 帰宅

<感 想>

スリルとサスペンスの2日間だった。

まずやくし山の登山口の取りつきを間違え藪こぎをさせてしまった。それでもなんとかやくし山についてたが途中からの林道歩きは結構こたえたのではないだろうか？申し訳なく思いせめて「ヤマジャクヤク」でも咲いてたらとガレ場を降りてみればすべて咲き終わり。(ガックリ)ただ、奥深い山だから空気はメヤおいしい。だけどなぜか蠅がやたら多い？美女が多いから？むらがる虫を無視して昼食を取る。

川原さんは地図とコンパスで実地分析。途中で待機されてる佐原さんと無線での交信。

下りは今度こそ間違えずに降りようと心に決めてたのに、松尾さんの猛スピード下りに誘惑されて又正式な下りルートはずしてしまった。幸い、私と松尾さん以外のメンバーは松園さんのしっかりした導きのもとちゃんと降りて来られた。(苦笑)山下リーダー失格である。

次は温泉に。「山江村温泉館ほたる」にはいる。温泉はよかった。皆さん美人にみがきをかける(今晚の宴会に備えて)。すべすべのお湯なのだ。

尾寄崎キャンプ場は下見の時から知り合いになった方(石原さんという絵かきさん)が出迎えてくださった。急きよ宴会に加わっていただく。この方の余興はただものではなかった。

感想文に書きたいが〇〇倫理委員会に触れそうで書けない。(わらい)川原さんも負けていた。(失礼)

この日のすき焼きは最高においしく料理のベテランさんに腕前をみせつけられた気がした。

石原さんの持ってきてくださった蕨のマヨネーズあえもびっくりするほどおいしかた！鹿肉の刺身は食べようと思っただけで無くなった。

(実をいうと)下見したときはあまり乗り気でなかった尾寄崎キャンプ場だったが泊まってみると色んな人との出会いがうれしくて、ここにしておよかったなあと思った。また、泊りに行きたくなってるから不思議である。栗の実るころ。(笑)



米田さんの余興も見ものだったのだ。松園さんは余興をすぐ自分のものにする！

さて、宴はつづいても明日のことを考え私は後ろ髪ひかれる思いをしながら10時頃寝袋に。分校の後利用のキャンプ場はどの部屋も使い放題なのだ。ここではまわりの人のいびきも気にせず寝られる。

16日、朝から少し天気がおかしい。バスは尾寄崎を出るのに一苦勞。このバスで高岳の登山口まで行けるのだろうか？一人だけ不安になる。急な登りが始まるとともに落石が多い。

元氣な男性軍が外に出て、石を除ける。私もたまりかねて降りて石を除ける。自分の軽を運轉して登った時はきづかなった深い谷底が片側に見える。米田さんがシートベルトをかけた。あちこちでけっこうかけている。私もかける。バスは仰烏帽子登山口まで行ってここで待ってもらい我々はここから林道を歩く。30分程で高岳登山口へ着く。この林道歩きはまわりの景色を本当に楽しんだ。

朝早かったせいか、朝ごはんを食べにきてた小鹿に出会う。ホウの木の花を初めて見た。帰って調べてみたら花はすごくいいにおいがするらしい。手に取れなかったのが残念。イワガラミ、ノリウツギ等白い花が多い中ニシキウツギの赤がきれいだ。高岳へは突撃するようにいちもくさん。あつという間に到着。もう、終わってると思ってたヤマシャクヤクがあちこちで咲いていた！エビネランも！こんな手つかずの自然を皆さんが喜んでる様子を見て山下は嬉しくなった。

帰りのバスは少し余裕をもってまわりの景色を楽しめた。ここでもまた、お尻のまっ白い小鹿がバスに追われるように走って前を行き山に入って行った。小鹿さん、おどろかしてごめんなさいネ。

色々苦勞して調べた甲斐があった。川原さんに訴えた甲斐があった。ここからやくし山へは下る形になるがそちらがまた絶景である。秋にはそちらに足を延ばしたいとひそかに思っている。(栗の実るころ)

それから人吉を走りバスは高速の通勤割引の時間に迫るまで相良温泉、クラフトパーク、焼酎蔵、青井阿蘇神社など見学して家路についた。参加して下さった皆さんスリルとサスペンスの山登りお疲れ様でした。また行ってみましょうネ。栗の実るころ。

(山下ちず子 記)

大山登山報告(2)

4月17日(金)～20日(月)

川原 慶紀

春、残雪期 参加者 8名

17日7:00 JR西駅前発～自動車道を長崎、九州、中国道を走り新見ICで国道へ。松園さんの地図と鎗水さんのカーナビで最短距離の山越え道を、溝口から大山へ。

予定より早く 16:30 に大山ビューハイツに着いた。

南面に雪は殆ど無く折からの晴天にくっきりと近く大きく聳えていた。

北面にも元谷の上部迄は残雪を残していたが、既に無雪期の崩壊が始まっていた。

雪の中での行動は体力を消耗するものである。それが春先の腐った雪ならなおさらである。体力を消耗しないうちに大山の主峰、弥山に登っておいたほうが雪上技術訓練が落ち着い

てできることと、天気の良いうちに登頂したほうが良いと云う判断で18日、初日に登頂した。大山は独立峰なので気象変化が激しく時に牙を剥いて咆哮する。

夏山登山道は所々残雪があったが雪融けから日も浅く、積雪期に上部から雪に押し出され



てきた大小の石が登山道に堆積して歩きにくい道になっていた。これから夏秋と登山者に踏みならされて少しは歩きやすくなるのだが。



弥山に着いたのは、先頭で2時間40分、最後尾は3時間で正午の事である。

下りで七合目辺りからシリセードで100m程の大滑降を、と思ったが8人全員が下れるほどの雪の量は残ってなかったので六合目下の行者谷への道を下り元谷へ。

元谷小屋の上部に雪上技術の出来るほどの、山の崩壊による落石の及ばない残雪の斜面があることを確認して、大神山神社、大山寺を経てビールを買い込みビューハイツ前の中原スキー場へ。

19日現地二日目 8:00にハイツを出て舗装された林道を元谷について、雪の有る上部へ向かったがここも雪が押し出してきて堆積した大小の石が歩くことを困難にした。

2時間近くかけて残雪のゲレンデに達した。

ピッケルによる滑落停止訓練、初めて間もなく全員が習得、中には正確に上手に体得する人も出てきた。次にピッケル無し反転して、つま先を蹴り込む方法は皆さん今一步。

アンザイレン、二人でザイルを組んでの行動。

コンテナス(同時行動)、スタック(隔時行動)の方法などを一通り。

最後にもう一度ピッケルによる滑落停止、全員合格。ピッケル無しは今一步でした。

20日 石見銀山へ、最盛期には20万人の人々がこの銀山の街に暮らしていたと云う。繁栄栄華をきわめていた。

1526年九州博多の豪商、神屋寿禎が採掘を始めて1923年の休山迄400年に渡って採掘、17世紀始め世界の産銀量の3分の1がここから掘り出されたと云う。

幕府の手に移ってから228年間に及ぶ間歩の開発が続けられた。



龍源寺間歩、正徳5年(1715年)の開発、他に永久、大久保、新切、新横相間歩等は大きく五山と呼ばれた。間歩を完全に閉じたのは昭和18年(1948年)のことである。

間歩は大小含め600以上あり、小さいものは人一人這ってもぎりぎりのものも多く、閉所恐怖症の人には耐えられるものではない。

五百羅漢が近くに祭られているが、坑道に入って働く人の犠牲がいかに多かったかを物語っている。

落盤での犠牲、それだけではなく狭い坑道での鉱石のきりだしは岩を金鋤と鑿で穿つもので、

石の粉塵を直接に吸い込んで若くして塵肺症にならざるを得なかった。

塵肺症は肺に石の粉などが張り付いて、呼吸が出来なくなる怖い病気で治ることはないという。その結果、30歳迄生きれば長寿の祝いをしたのだそうである。

見えない所で繁栄を支え犠牲になった人々が多くいたのだろう。

地球の歴史の中で人類にとって最初の職業病は塵肺症であったそうである、ピラミッドや

石作りの神殿、鉱山に働いた人々もそうであつたらう。

20 日午後 10 時前に諫早に無事帰り着きました。行き帰り長時間運転して頂いた御二方御疲れ様でした、会計の御二人も御疲れ様でした。参加された皆さん御疲れ様でした、全員事故が無くて良かったです、有り難うございました。

大山観光雪見登山と石見銀山

4月17日(金)～20(月)

米田テイ子

私にとって、やっとの思いでたどり着いた大山登山でした。

結果的には、天気恵まれ、指導者に恵まれ、仲間に恵まれ、大山残雪期登山を無事に成し遂げることができました。今は心身共に充実したものがあつた、感謝の気持ちでいっぱいです。

昨年11月11日の運営委員会において、長崎県連が冬山に取り組むことを知りました。当初は二の足を踏んでいましたが、参加することに決定。その後、長崎で研修を受けたり、OH クラブで指導を受けたり、会議を重ねているうちに「私には無理かな？」と何度も躊躇しました。しかし、CLの存在に後押しされ参加することができました。



諫早から鳥取県までは遠く、1日かかりです。大山の町に到着すると、目の前に雄大な大山がそびえています。早速、道路脇に車を止め写真撮影です。青空の下、大山を仰ぎ見ている皆さんの表情は喜々としていました。

宿泊する国民宿舎に着いてビックリ。大山の北壁が目の前です。当たり前のことですが「大山北壁概念図」のとおりです。さっそく、登山コースや冰雪技術練習場所等が確認できました。1泊目の夜は“いざ出陣的な気持ち”になり、ピッケル等、沢山の持ち慣れない冬山装備を念にチェックし、登山に備えました。

念願叶って無事に登山を済ませた2泊目の夜は、ホットした気持ちからか、皆さん、おおいに食事やお酒を楽しみました。夜も更けるころには OH クラブの運営のありかたについてケンケンガクガク、いつもと違う雰囲気の中、白熱した論議が交わされました。

アレレ、肝心の大山登山のことは抜けてますね。(笑)8人で感想文を書くので他の人にお任せして、一言だけ。

雪は例年の半分とのことでしたが、急傾斜の所が多く、一歩間違えると谷底にまっしぐらという感じで気が抜けませんでした。

2日目は元谷にて、CLに滑落停止を中心にした冬山技術を指導していただきました。ピッケルを使う方法と、つま先で蹴って停止する方法でしたが、CLのこんなにカッコイイ姿は初めて見たような気がしました。私達も負けまいと何度も挑戦しましたが、“まだまだ45点” “今度は69点” “最後の着地だけ良かった” 等と勝手なことを言い合い大いに青春(?)を楽しませていただきました。

CLはじめ、長距離運転、会計、渉外、ルート、その他皆さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。

伯耆大山残雪登山報告

(2009年4月17～20日)

春とはいえ未だ雪山の情緒を味わえる大山に、雪山訓練がてらに登ってきました。

マイカー登山ですが、中国地方への登山時の時間配分の参考にでもと報告します。

参加者：川原慶紀、米田テイ子、松園朱実、山崎幸子、鎗水律夫、篠原弘二、坂口荘一、中須賀孝正

天候：17～19日；快晴。20日；晴～曇～小雨～雨。気温高い

4月17日 7:05 西諫早駅前発 荷物は昨日各配車車に積み込み済み、予定時刻に発。

8:01 金立で食料調達。

9:00 若宮 走行1時間だが通過、海が見えるめかり PA で休息、9:40 に発。

11:05 鹿野 PA 11:18 発。12:15 安佐 PA で昼休み、尾道ラーメンを食するもテンで味悪し

14:30 新見 IC ここより高速を降りて国道を走る。最新式ソフトのナビに従い一路大山へ

16:00 ホテル着 大山ピューハイツ到着。スキー場と一体のホテル街。標高 800m。大山の北

18:00 夕食 本日夕食は前もって予約の漁り火定食。各自 1 本のビールで乾杯し夕食。

21:30 就寝 明日の準備をし早めに休む。

*諫早一大山間は約 650 k m。新見 IC までの高速料金は 10750 円也。

18日 5:30 起床 展望高台近くへ散策。水道施設と予想したがスキーのジャンプ台とのこと。

6:00 散策 標識によれば近辺に9つのリフトがあるとの説明。7:00 朝食本日も美味

8:05 ホテル発天候は晴天。登山口までは近距離とのことで徒歩でゆく。

8:25 登山口阿弥陀堂 20分で登山口着。8:35 阿弥陀堂着、事故防止祈願、ウォーミングアップし発

8:45 登山開始雑木林の中のひんやりの登路。5分ですぐ一合目の標識

9:40 四合目 約一時間で四合目。登路の所々に積雪・残雪：ザラメ状の固まった雪。

9:50 五合目過ぎ分岐 本谷方向・行者谷コースへの分岐、避難小屋もあり見晴らしも良好

10:20 六合目過ぎ 残雪の頻度・深さ強くなり、アイゼンを付ける。11:00 過ぎに急坂となる

11:10 八合目 いよいよ残雪深くなる。アイゼンの威力出てくる。予想外の残雪に感嘆

11:25 木道出合い登路はゆるやかになり周囲にはハイマツならぬダイセンキャラボクの群落

11:40 大山弥山頂上着 登山開始から約 3 時間で頂上・未開の頂上小屋あり。

記念撮影後に昼食

12:20 昼食後下山開始 ホテル特性の登山弁当で昼食。登山客はまあまあ 30 数名。

すぐ下山始める

13:25 六合目分岐 木道周回してから下山中はツアー客の一行と(25-6名)と出会。

14:00 本谷分岐 約一時間で分岐、休息。ここから元谷経由で下山。避難小屋あるも通過し

14:25 大神山神社入口 10数分で分岐となり神社経由で下山。ここまで約 2 時間の行程。

14:48 大神山神社奥宮 20 分ほどで奥の宮につく。お参りし日本一の石の参道をとおり大山寺につく

15:00 大山寺 お参り、梵鐘も突いて良いとのことで突く、清めの水を明日用にもらう。

15:10 大山寺町通り 街におり、土産屋で、本日の飲み物入手、ホテル前スキー場芝生で皆で

15:40 宿舎着 途中仕入れたビールでホテル前芝生で乾杯。終了し入浴、明日の準備

18:00 夕食 予約のジンギスカン料理とビールで乾杯。

23:00 就寝 部屋で歓談・オレンジの登山実態等の論議も出て後、遅めの就寝。

19日 5:30 起床 昨日同様の起床

6:00 散策 スキージャンプ台までゆき、眺めて滑降途中までおりてみる。相当な傾斜

7:00 朝食 8:10 宿発 早々に朝食済ませ発つ。近道で登り林道経由で行者谷の雪渓を目指す

8:40 大神山神社分岐 行者谷登山口まで 40 分

9:25 訓練場所着 大堰堤をとおり沢の石ごろごろを通過して 30 数分でやっと現場に着く

9:55 訓練開始正面、屏風岩の下方向、雪渓も深い。雪渓転落防止法のピッケルの使い方。

12:10 昼食 2 時間の訓練で疲れ、昼食進む

12:45 訓練再開 訓練再開、アンザイレン、エイト管ノ利用法、スタックカット法。
14:00 訓練終了 合計4時間強の雪山訓練。有用疲労多。14:20 下山開始
15:05 M氏転倒帰りは登りと同じ作業用林道を早足で下山、途中Y氏側溝から突き出ている
枯れ木に足を引っかけて転倒。右手手のひら・肘の内側から出血、治療後発
15:40 宿舎着 約1時間で下山完了。入浴後町に食事に出るも店じまいのためとれず
18:00 夕食 買出し組が街に走り飲みものその他入手。7時前に全員そろい、やっと夕食。

20日 5:30 起床・6時散策 スキー場上までゆくが時間不足引き返す。ふき・しょうじょうば
かまあり

7:00 朝食 最後の朝食。荷物整理後 8:05 発
10:15 岩見着 散策・展示物鑑賞。駐車場では少なかった観光客が散策につれて多数となる
(銀山遺跡見学) 銀鉱石の龍源間歩(まぶ:掘り出し部のひとつ)、洞窟となっており見学
13:15 同発 約3時間の見学で家路に向かう。昼食をと店を探すが近くにはなし。
14:00 川本町 食堂さがすか見つからず、地家物店よこの店で昼食後、14:20分に同発。
15:40 吉和 PA 16:00 同発、16:50 荷下ろし峠、ココヨリ急に大雨風となる
17:50 壇ノ浦着 18:10に同発、19:40 金立、20:30 全員無事諫早着、解散。

(以上、中須賀孝正記)

技が本当に格好良くて惚れぼれ

山崎 幸子

大山登山に参加しました山崎です。大山登山に参加した全員に感想を少しで良いから書くように言われました。文章書くの苦手な私は遅くなってしまいました。すいません。

オレンジニュースの5月号に松園さんが大山登山報告として詳しく書いておられました。私は上手くかけませんので。

ベテランの方7名の中に未熟な私が大山登山に参加させて貰いました。私の登ってみたい山の一つでした大山は。でも雪山だし恐怖もありました。登坂隊長の坂口さんと米田さんの後をどうにか付いて行く事が出来ました。体調がイマイチ悪かったから最後まで登れるか心配でしたが坂口さんと米田さんの励ましがあってどうにか頂上まで行く事ができました。

松園さんも書かれてる通り達成感を味合う為に山に登っているって！それが険しい山になればなる程に。

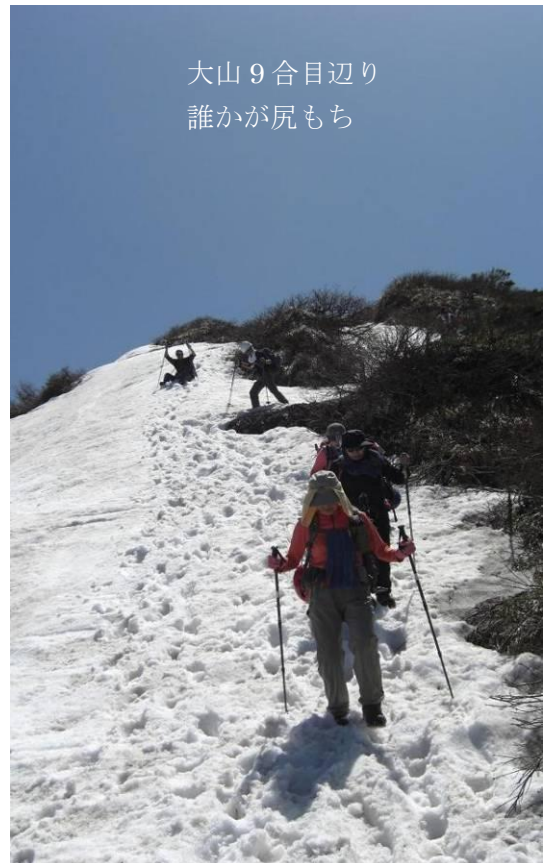
冰雪技術訓練は初めての経験でした。だいたい雪山に登った事がなくて。川原さんはやっぱりスゴイ方でした。技が本当に格好良くて惚れぼれしました。私は全然上手くいきません。でも勉強になりました。本当に楽しい大山登山でした。ありがとうございました。





日本一のラカンマキ
古賀植木祭りにて

ある日 あの山



大山9合目辺り
誰かが尻もち